ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

ウトナイ湖通信

No.270
2026年11月号

木々の葉が落ち、シジュウカラやエナガ（亜種シマエナガ）などの小鳥が観察しやすい時期となりました。地面ではツグミやカケス（亜種ミヤマカケス）などの野鳥が、落ち葉の下のエサを探している様子が観察できます。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

11月 イベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

11 月8日(日) 10:30～11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。
※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

●定員：10 名程度
●対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
●申込：不要。直接当センターへ

ボランティア体験講座
～自然を調べる仲間を募集中～

水鳥カウント調査体験

11 月 29 日(日) 9:30～12:00

当センターやボランティア活動についてレクチャーした後、屋外でウトナイ湖の水鳥を数える調査を体験いただきます。受講後、ご希望の方は当センターボランティアとしてご登録いただけます。

●定員：先着5名　●対象：高校生以上
●申込：11/1(日)～11/28(土) 9:00～17:00
電話または直接当センター窓口へ

※当センターのボランティアは本講座を受講した方のみ登録いただけます。

市民ギャラリー

環境省 アクティブ・レンジャー写真展
北の自然の舞台裏 2026

展示期間：2026 年 10 月 21 日(水)～11 月 23 日(月・祝)　展示：環境省

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231
〒059-1365 苫小牧市字植苗 156-26 / 道の駅となり
開館時間：午前 9 時～午後 5 時 / 入館無料
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 検索

ラムートくん

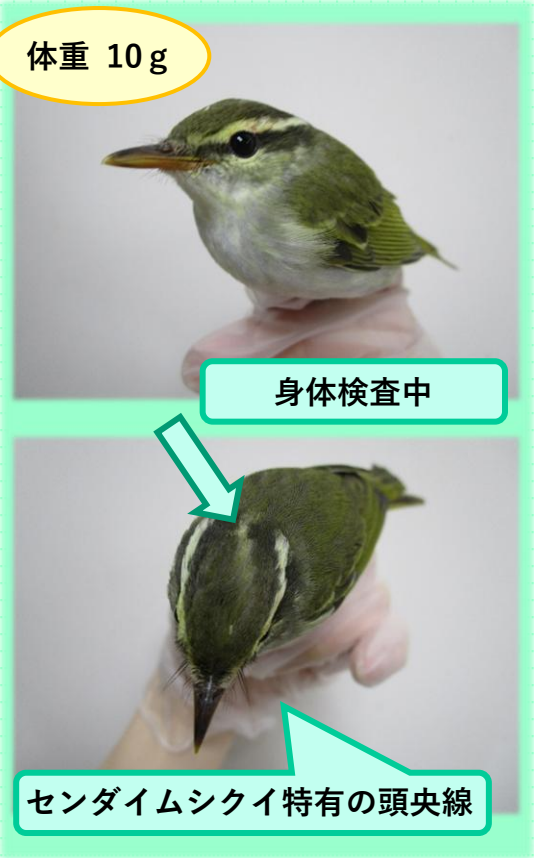
～ ウトナイ湖 ～
・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
フライウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介いたします。

センダイムシクイ



原因：人工物への衝突疑い

9月15日

16：00頃、市内のある店舗の駐車場で飛べずにいるところを市民が発見し、保護。

↓

その後、当センターへ搬入。

↓

初診では明らかな外傷は認めず、羽ばたきも確認。

↓

おそらく建物等の人工物へ衝突し、一過性の脳しんとうを起こしていたものと思われた。経過観察後も容態は安定したため、当日のうちにリリースとなった。

リリース

センダイムシクイ　（スズメ目 ムシクイ科）

体長13cmの小鳥で、北海道では夏鳥として飛来します。成鳥は雌雄共に上面は黄緑褐色で、頭部に灰緑色の頭央線があるのが特徴です。「チヨチヨビー」や「チチヨビー」といったさえずりは「焼酎一杯、グイー」と聞きなされます。

枝や葉の裏などにつく昆虫やクモを主に捕食し、生息しています。

トピックス



ボランティアフォローアップ研修

水鳥カウント調査入門

毎月ボランティアの方に協力いただいている水鳥カウント調査の目的や調査方法、これから見られる水鳥のポイントを、レンジャーが実践を交えてレクチャーしました。参加者からは「改めてしっかり学ぶことができた。」といった声が聞かれました。



とまチョップ図書館号もやってきた！

ウトナイ湖の生きもの工作

毛糸のポンポンやアイロンビーズ、折り紙などでオオワシなどを作るイベントを開催しました。さらに苫小牧市中央図書館より移動図書館車も出展し、絵本の読み聞かせなど盛りだくさんの内容で来館者に楽しんでいただきました。










ボランティアコーナー

9/27 に開催した「ボランティアフォローアップ研修」に参加された　さとう　さんにインタビューしました。

「フォローアップ研修」に参加しようと思った理由はなんですか？

ボランティア登録をしようとしたきっかけになりますが、元々人見知りをするほうでしたので、それを治すきっかけとなれば良いなと思ったからでした。
そこで、やるのであれば自分のスキルアップをして、出来るだけウトナイ湖の魅力等を来館の方々に伝えられるようになりたいと思い参加しました。

活動してみた感想を教えてください。

今回は水鳥カウント調査入門ということで、調査の目的、自分以外の人が見てもわかる調査票の記入の仕方、他の調査ポイントとの情報の共有の仕方等を学ぶことが出来ました。

印象に残ったことや今後の意気込みがあれば教えてください。

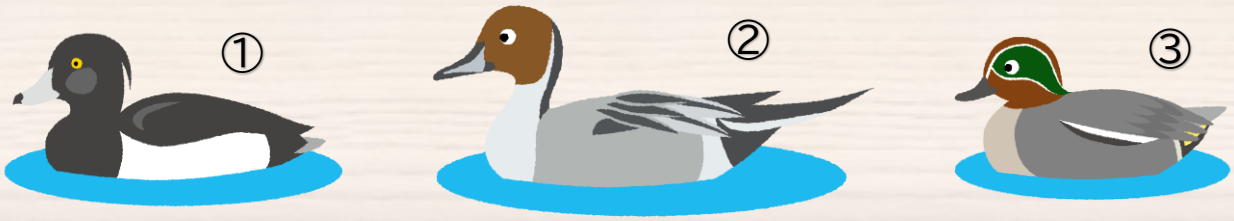
ウトナイ湖に来られた方々がさらに興味を持ってもらえるような話が出来る様に、ボランティア活動に興味を持ってくれる方が増える様に、私も知識を深めて頑張りたいと思います。



ウトナイ湖で見られる水鳥を
図鑑で確認する　さとう さん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー　【ウトナイ湖 野鳥クイズ】

ウトナイ湖には、秋になるといろいろな種類のカモが北の国から渡ってきます。
中には見た目の特徴から名前がついているカモもいて、見分けるときのヒントになります。
下の 3 つの絵のうち、「オナガガモ」のオスはどれでしょうか？



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！

Instagram　Facebook　X







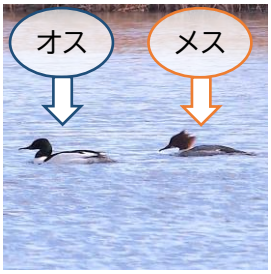

レンジャーのおすすめ自然情報



【カケス（亜種ミヤマカケス）】
ウトナイ湖では秋～冬に見られる。落ち葉の下からドングリを探し出し、地面や木の洞などに隠す。



【 ツグミ 】
ウトナイ湖では秋～春先に見られる。地面を歩く様子や、ツルウメモドキの実などを食べる様子を見ることもある。



【 カワアイサ 】
ウトナイ湖では冬によく見られるカモの仲間。水に潜って魚を捕まえる。マガモより大きい。



【 マガモ 】
ウトナイ湖では秋～春に群れでいる姿がよく見られる。館内の望遠鏡で探してみよう。

秋も終わりに差しかかり、木々の葉が落ちて、野鳥が観察しやすい季節となりました。そろそろカケス（亜種ミヤマカケス）や冬鳥であるツグミがやってくる時期です。広場や観察路沿いを探してみてください。

また、湖では、メスへのアピールのために色鮮やかな姿となったオスのカモが見られるようになります。

野鳥観察にぴったりの時期ですので、しっかりと防寒をした上で、晩秋のウトナイ湖をお楽しみください。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから

Instagram　Facebook　X



答え：② 漢字では「尾長鴨」。オナガガモのオスは尾羽が長いのが特徴です。①は「キンクロハジロ（金黒羽白）」という名前で、オスは金色の目、黒い体、翼の一部が白いことが名前の由来と言われています。③は「コガモ（小鴨）」という名前で、日本のカモの中でも特に小さいことから、この名前がついたようです（子どものカモではありません）。